【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成23年2月24日(2011.2.24)

【公開番号】特開2008-9338(P2008-9338A)
【公開日】平成20年1月17日(2008.1.17)
【年通号数】公開・登録公報2008-002
【出願番号】特願2006-182525(P2006-182525)
【国際特許分類】
Ｇ０３Ｂ　17/02　　(2006.01)
Ｇ０３Ｂ　17/17　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０３Ｂ　17/02
Ｇ０３Ｂ　17/17

【手続補正書】
【提出日】平成23年1月12日(2011.1.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
撮影開口部を通過する被写界からの撮影光線を折り曲げて撮像素子に導く折り曲げ光学系を有する鏡筒ユニットと、
カメラ本体と、
前記カメラ本体に対して保持されると共に、前記鏡筒ユニットを前記撮影開口部と一体に回転自在なように保持する支持部材とを有し、
撮影する際には、前記鏡筒ユニットが前記支持部材に対して回転してパンニング撮影が可能であると共に、非撮影状態となるときには、前記鏡筒ユニットが前記支持部材に対して回転することにより前記撮影開口部が前記カメラ本体に対して対向することを特徴とする撮像装置。
【請求項２】
前記支持部材は、前記カメラ本体に対して前記鏡筒ユニットの回転軸方向に移動自在に保持され、前記支持部材が前記カメラ本体に対する移動方向における第１の位置にあるとき、前記鏡筒ユニットが回転しても前記撮影開口部が前記カメラ本体に対して対向することがなく、且つ、前記支持部材が前記カメラ本体に対する移動方向における第２の位置にあるとき、前記鏡筒ユニットが回転することにより前記撮影開口部が前記カメラ本体に対して対向することが可能であることを特徴とする請求項１記載の撮像装置。
【請求項３】
前記支持部材が前記第２の位置にあるとき、前記鏡筒ユニットの底面が前記カメラ本体の底面と面一になることを特徴とする請求項２記載の撮像装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
本発明の目的は、非撮影時にレンズ（撮影レンズ群）を保護することができる撮像装置

を提供することにある。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００６】
上記目的を達成するために本発明は、撮影開口部を通過する被写界からの撮影光線を折り曲げて撮像素子に導く折り曲げ光学系を有する鏡筒ユニットと、カメラ本体と、前記カメラ本体に対して保持されると共に、前記鏡筒ユニットを前記撮影開口部と一体に回転自在なように保持する支持部材とを有し、撮影する際には、前記鏡筒ユニットが前記支持部材に対して回転してパンニング撮影が可能であると共に、非撮影状態となるときには、前記鏡筒ユニットが前記支持部材に対して回転することにより前記撮影開口部が前記カメラ本体に対して対向することを特徴とする。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
本発明によれば、非撮影時にレンズを保護することができる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４１】
対物レンズ１及び対物レンズホルダー７はプリズム２に対して、第一の光軸Ａ上の回転中心Ａ１Ｒを支点として回転可能である。また、対物レンズ１を保持した対物レンズホルダー７及びプリズム２を保持するプリズムホルダー８を一体で第二の光軸Ｂ上の回転中心Ｂ４Ｒを支点として回転させることが可能な構成となっている。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４７】
即ち、対物レンズ１を保持した対物レンズホルダー７及びプリズム２を保持するプリズムホルダー８を一体で第二の光軸Ｂ上の回転中心Ｂ４Ｒ（図１参照）を支点としてθだけ回転させる。そして同時に、対物レンズ１及び対物レンズホルダー７はプリズム２に対して、第一の光軸Ａ上の回転中心Ａ１Ｒ（図１参照）を支点として更にθだけ回転される。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４８
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００４８】
この結果、プリズム２がθだけ回転したとき、対物レンズ１は、上記の通りプリズム２と一体でＢ４Ｒを回転中心としてθ回転すると同時に、更にプリズム２に対してＡ１Ｒを回転中心としてθだけ回転することで合計２θの回転を行う。この結果、第一の光軸Ａに生じる傾き２θに対して、対物レンズ１の光軸の傾きを一致させることが可能となる。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５２】
チルト駆動レバー１１の回転により、上記の通り、対物レンズ１を保持した対物レンズホルダー７及びプリズム２を保持するプリズムホルダー８が一体で第二の光軸Ｂ上の回転中心Ｂ４Ｒ（図１参照）を支点としてθだけ回転する。そして、同時に、対物レンズ１及び対物レンズホルダー７はプリズム２に対して、第一の光軸Ａ上の回転中心Ａ１Ｒ（図１参照）を支点として更にθだけ回転される。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９９】
図１７は撮影が可能な状態を示すものであるが、その状態から、撮影者が図外のメインスイッチを切ると、上記パンニング駆動機構の作用により、チルトヘッドカバー４９を含む鏡筒ユニットが回転動作を開始する。